

平成29年8月23日

第67次 印旛地区教育研究集会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会 提案資料

研究主題

主体的に学び、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成



佐倉市立根郷小学校 貝渕 寛枝

目次

1	研究主題	2
2	主題設定の理由	2
3	研究仮説	4
4	授業実践	8
5	成果と課題	15

1 研究主題

主体的に学び、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成

主体的に学び…自らの課題をもち、それを解決させるために調べたり、他者と意見を話し合ったりすること。

豊かに表現…他者と交流することで、自分の考えを深め、確かなものにして他者に知らせること。

平成29年度からは、本校の研究の方向性に沿って、新たに

～美しい言葉を取り入れた国語科教育～と副題を加えた。

2 主題設定の理由

(1) 社会的な課題より

社会の国際化は私たちに多様性をもたらし、また、急速な情報化や技術革新は人間生活を質的に変化させている。予測できない未来に対応するために、社会の変化に受け身で対処するのではなく、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら課題を見つけてその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。学校の場合においては、子供たち一人一人の可能性を伸ばし、互いの多様な考え方の共通点や相違点を理解し、相手の考えに共感したり統合したりして、協力しながら問題を解決していくこと（協働的問題解決）ができるような力の育成が必要となる。そういう社会の中で、学習の基本は国語科においての日本語の習得であると考え、まずは、日本語の美しさに触れさせることで、子供たちの「言葉」に関する関心を高めたいと考えた。日本語の表現の豊かさや美しいリズム、奥深さ、学ぶ楽しさなどを味わわせながら、児童の主体的な学びを促し、表現活動につなげていきたいと考える。

(2) 学習指導要領より

「新しい学習指導要領等が目指す姿」（文部科学省）の中で、「次期改訂の視点は、子供たちが「何を知っているか」だけではなく、「知っていることを使ってどのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」ということであり、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力や人間性など情意・態度等に関わるものの全てを、いかに総合的に育んでいくかということである。」とされている。

次期改訂が目指す育成すべき資質・能力を育むためには、学びの量とともに、質や深まりが重要であり、子供たちが「どのように学ぶか」についても光を当てる必要があるとの認識のもと、課題の発見・解決に向けた「主体的・協働的な学び」が重視されている。

また、学習指導要領に明示されているように、これからの国語科教育では「伝統的な言語文化の継承・発展」を意識して積極的に取り組まなければならないと考え、今年度は、特に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を大切にしたい指導を行う。

(3) 学校教育目標より

本校では、「実践力があり個性豊かでたくましい児童の育成 一進取の心一」を学校教育目標に掲げ、これまでその具現化を図ってきた。「実践力」を身につけさせるためには、学んだことを生かす場と評価が必要である。本校では、「実践力」を自分だけの考えにとどまらず、友達と情報を共有しながら色々な考えの共通点や相違点を見出し、共感したり考えを統合したりして、問題解決にあたる力であると考えている。そこで、本研究を通して、主体的に課題を見出し、他者との交流を通して自分の考えを深め、それを表現できる児童の育成を図っていく。

(4) 児童の実態より

本校の児童は、素直で学ぼうとする意欲が高い者も多いが、生活習慣や学習習慣が身につけておらず、意欲を継続することが難しい者も多い。

本校では、国語科の研究を平成28年度から始めている。平成28年度の7月に児童の意識調査を行ったところ、国語科の学習が好き、または、とても好きな児童は540人中407人で75%であった。しかし、その一方で、話す・聞く活動や書く活動など表現活動が好きな児童は約343人で64%であった。自分の考えをもつことができなかつたり、考えをもっていたとしても他者の前で表現することが苦手であつたりする児童が多かつた。

このように、表現することをためらう児童が多いことは、語彙の少なさや言葉の理解の低さがあると考えられる。そこで、日々の授業の改善とともに、国語科学習の特に「話す・聞く活動」において、児童が日本語に関心をもち、主体的に学習に取り組み、自らの考えを豊かに表現できるような手立てを模索することとし、本研究主題を設定した。

3 研究仮説

今年度から、昨年度の課題と本校の研究方針をふまえて、新しい仮説1を取り入れ、昨年度までの仮説1, 2を仮説2, 3として取り組んだ（昨年度の実践は別紙）。

本提案では、「話すこと・聞くこと」の領域で授業実践し、仮説の検証を行うこととする。

仮説1

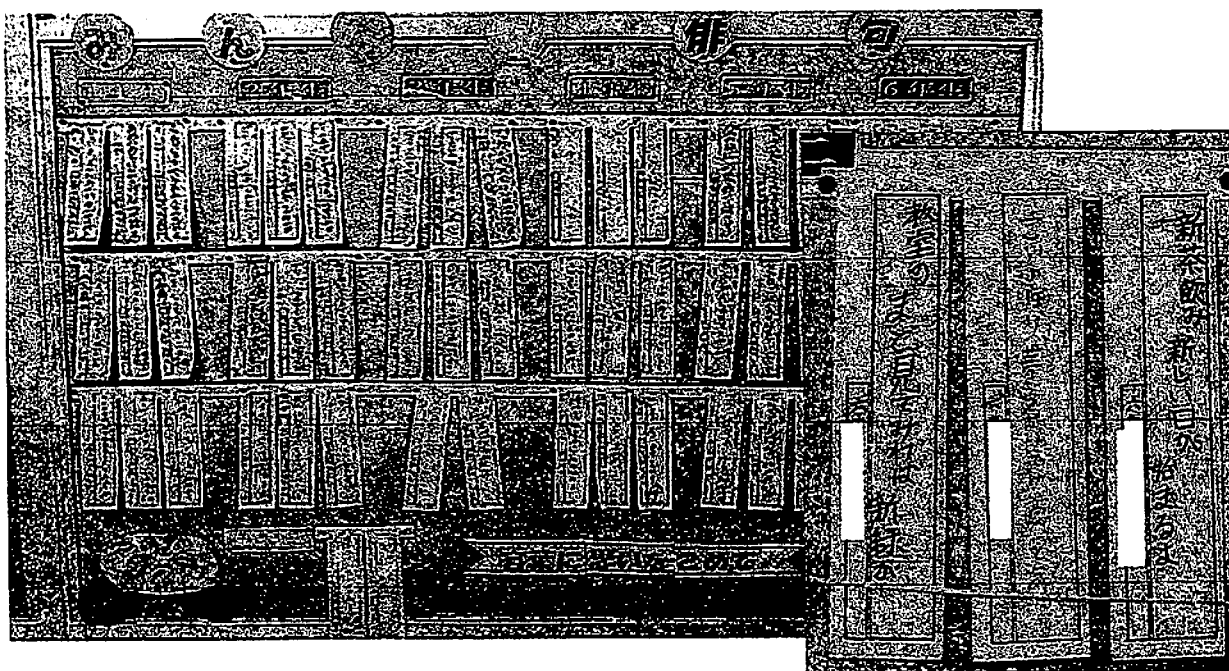
美しい日本語を授業や日常生活の中に効果的に取り入れれば、進んで言葉の学習に取り組み、語彙を増やすことができるだろう。

児童の表現力の低下は、語彙力の不足が考えられる。まずは、児童の意欲を引き出すために、美しい日本語を授業に取り入れ、日本語の楽しさに気付かせるようにする。

本校での「美しい言葉」とは、「論語」や「奥の細道」をはじめとする名文や名作など、美しさやリズム感、表現の巧みさがあり、情景や心情の浮かぶものである。それらを音読し、親しむ活動を通して、児童が日本語を楽しみ、読む・聞く・書くなどの言語を学ぶための学習に意欲的に取り組めると考えた。また、意欲が高まっても表現するための「言葉」や「方法」を知らなければ、個人の能力を高めることは難しいと考え、「語彙」を増やし、モデルとなる美しい文章に触れることで表現力を高めたいと考えた。国語辞典などいろいろな辞書も活用して言葉を学ぶ機会を多くし、それらの体験的な学習を通して、児童の表現力が高まると考えた。

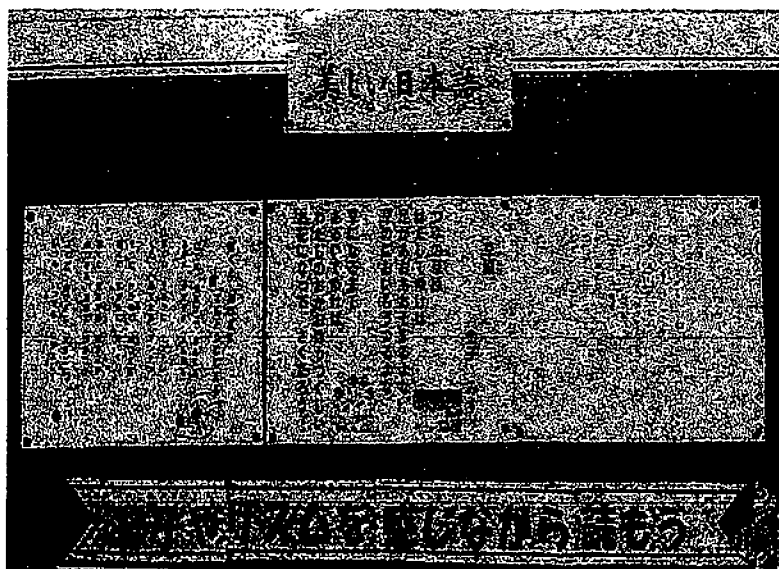
<具体的な手立て>

音読の工夫 視写 言葉集め 俳句・短歌づくり 群読会 創作活動 辞書の活用

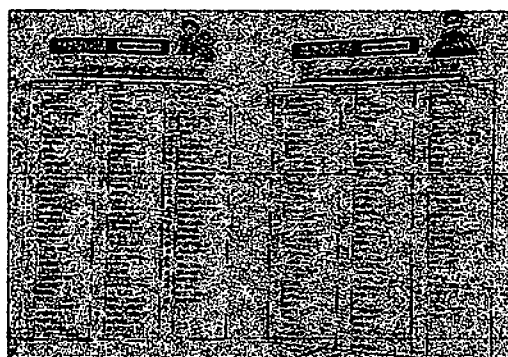


<全校取り組む俳句作り>

<各学級3句職員室前に掲示>

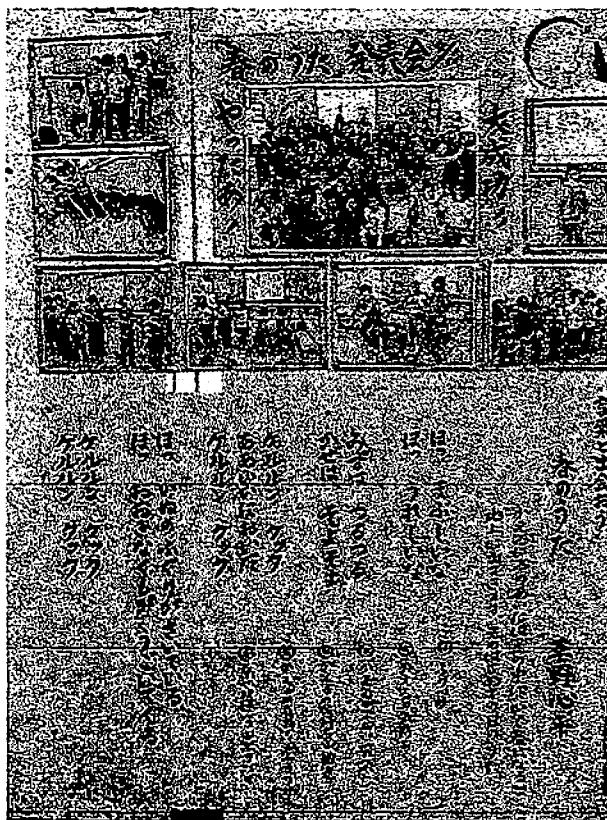


〈全校で取り組む朝の音読〉

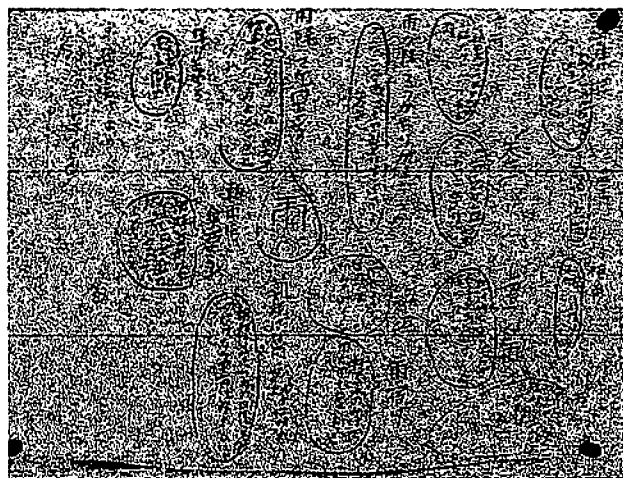


〈全校で使用している各学年で使えるようにしたい感想の言葉集〉

『井上一郎「読解力」をのぼす読書活動』（明治図書）



〈第4学年の取り組み：音読発表会〉



〈第6学年の取り組み：言葉集め〉



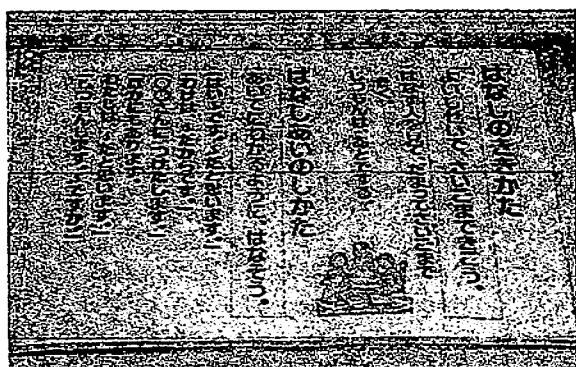
〈第3学年の取り組み：俳句帳〉

目指す姿を明確にし、そこに迫る言語活動を工夫すれば、主体的に課題を見出し、意欲的に学ぶ子供が育つだろう。

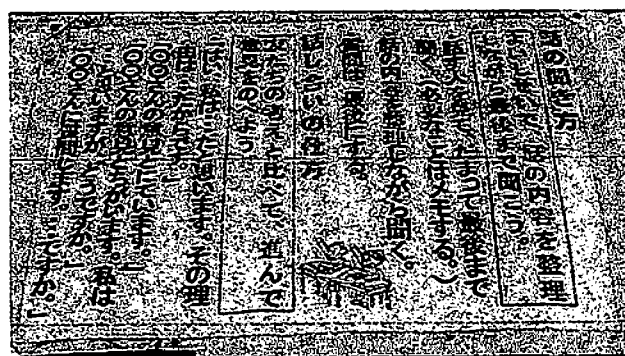
主体的に学習に取り組むためには、児童が「やってみたい」「おもしろそう」と思うような言語活動の計画が必要である。児童に自分の考えを表現したい、伝えたいという目的や相手意識をもたせるよう工夫して主体的な活動ができるようにする。また、どのような力を付けたいのか、望ましい目指す姿を明確に提示することで、表現する力を向上させていくようにする。自分の姿を自己評価したり客観的に評価したりできるように振り返りを工夫することで、目指す姿と自分を比較し、見通しをもって意欲的に学習に取り組めるであろう。

<具体的な手立て>

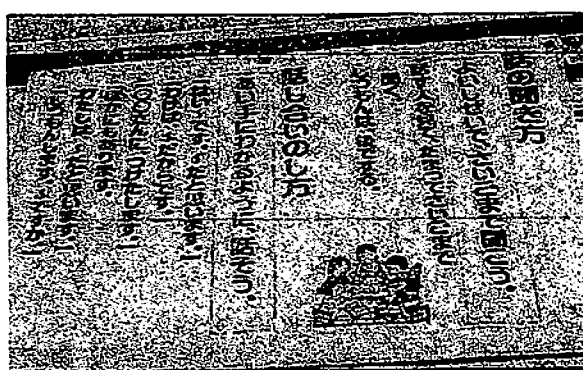
身につけさせたい力の明確化	言語活動の工夫	よいモデルの可視化
目的・相手の提示	学習の流れの揭示	振り返りカードの活用



〈低学年の掲示物〉



〈高学年の掲示物〉



〈中学年の掲示物〉

〈学年に応じた話し方のモデル〉

考えを伝え合う場と活動を工夫し、探究的な話し合いを行うことで、自分の考えをさらに深め、お互いを高め合う子供が育つだろう。

授業においては、一人一人が納得するまで話し合う場と活動を大切にする。考えを伝え合う場を工夫することで、児童は自分の考えを伝えるだけでなく他者の考えや意見を理解し、取り入れる等、相互作用的な活動を行えるだろう。他者と意見を交流させ、新たな考えや発想があったことに気付いたり、確信を得たりして、考えを深めて表現ができる。

また、学習を振り返る活動や、次時への見通しを確認する活動を大切にするすることで、個への対応が可能になる。自分の考えをなかなかもてない児童への個に応じた手立てを用意することで、一人一人が自分の考えをもって交流し、交流したことでさらに思考し、表現することができるだろう。個人では深められない学習も、小グループ編成であれば、より深い話し合いが可能である。それをまた、学級全体で磨き合うことで、より深い思考をし、それが、個々の表現力を高めると考える。

<具体的な手立て>

児童の実態の把握	個に応じた手立て、声かけ	ワークシートの工夫
振り返りカードの工夫	考えを伝え合う場と方法の工夫	グループ学習

4 授業実践

第6学年

1 単元名

枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～

2 単元の目標

「国語への関心・意欲・態度」

・進んで「枕草子」を読んだり、自分流「枕草子」を書いたり、感想を話し合おうとする。

「話すこと・聞くこと」

・考えたことや伝えたいことを古語の知識や季節に対する情報を関係させて話し、表現のしかたについて感想を述べたり、友達の感想を自分の感想と比べて聞いたりすることができる。

「書くこと」

・自分流の「枕草子」を書き、表現の仕方に着目して助言し合うことができる。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

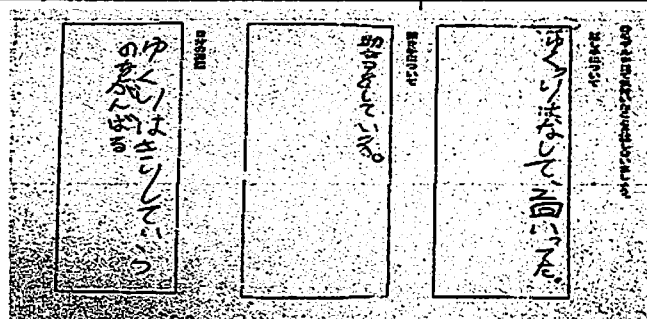
・「枕草子」の内容の大体を知って音読し、清少納言や友達のものを見方や感じ方を知ることができる。

3 学習の様子（6時間扱い）

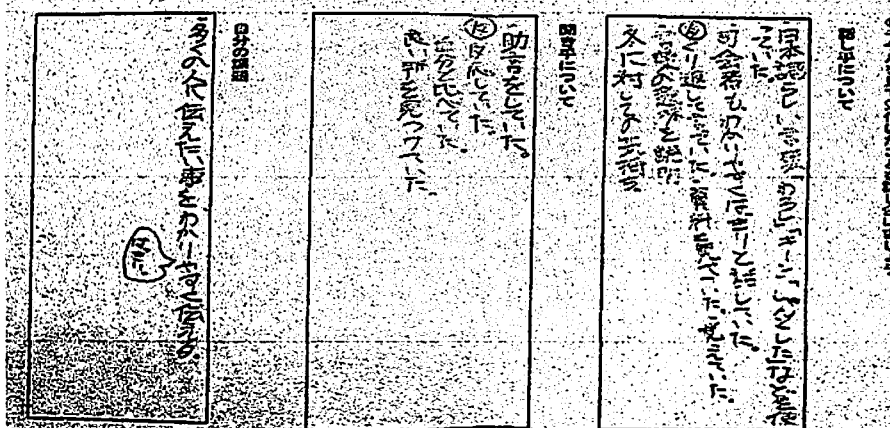
学習過程	時配	学習内容と学習活動	○支援◎評価
第一次 つかむ 1	1	・枕草子を読み、教材の概略をつかむ。 モデルを見て、自分流の「枕草子」を書き、それを交流するという学習の見通しがもてるようにする。 枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～ ・学習の計画を立てる。 ・原文を繰り返し音読する。	○支援◎評価 ○モデル動画を見ることで学習の意欲付けを行う。 <u>手立て：よいモデルの可視化〈仮説2〉</u> ◎学習の計画を立て、学習の流れをつかもうとしている。 (関心・意欲・態度) <u>手立て：言語活動の工夫〈仮説2〉</u>
		 〈モデルを見ている様子〉 →ビデオ1	

仮説2：自分流の「枕草子」発表会の様子をモデルとして動画で見せ、目標とする姿を確認した。そのような姿になるための必要な学習を想起し、児童自身が自ら学習計画を立て、まずは教材文を味わい、自分流の「枕草子」を創作し、発表して感想を話し合うという流れをしっかりとつかむことができた。そうすることで、意欲的に活動することができた。

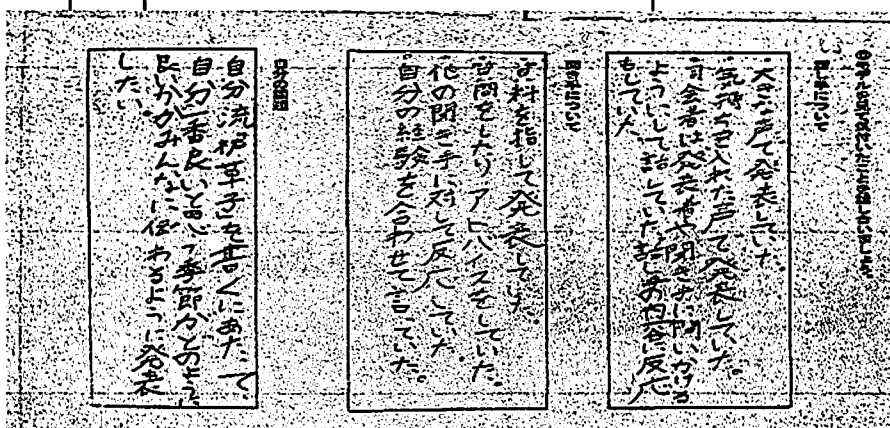
仮説1：親しみやすい内容の古典文学である「枕草子」は、時代による言葉の変化を感じつつ、長年変化しない四季への感情が表現されており、自分流の「枕草子」を創作するにも、感想を話し合うにもよい教材であり、言語活動の中で話すこと・聞くことの領域の力を付ける学習計画を立てることができた。



抽出児童 A
(学習が苦手)



抽出児童 B
(発表、話すことが苦手)



抽出児童 C
(話すことは得意)

手立て：児童の実態把握〈仮説3〉

2

- ・大意を参照しながら原文を読み、各「季節」の情景をイメージする。
- ・四季に対する感じ方をどのように表現しているかに着目して音読する。



〈枕草子の第1段を暗唱する様子〉

○何度も音読することで、「枕草子」の短くてリズムのよい響きを味わわせる。

手立て：音読の工夫〈仮説1〉

◎「枕草子」を味わい、日本語のおもしろさを感じている。

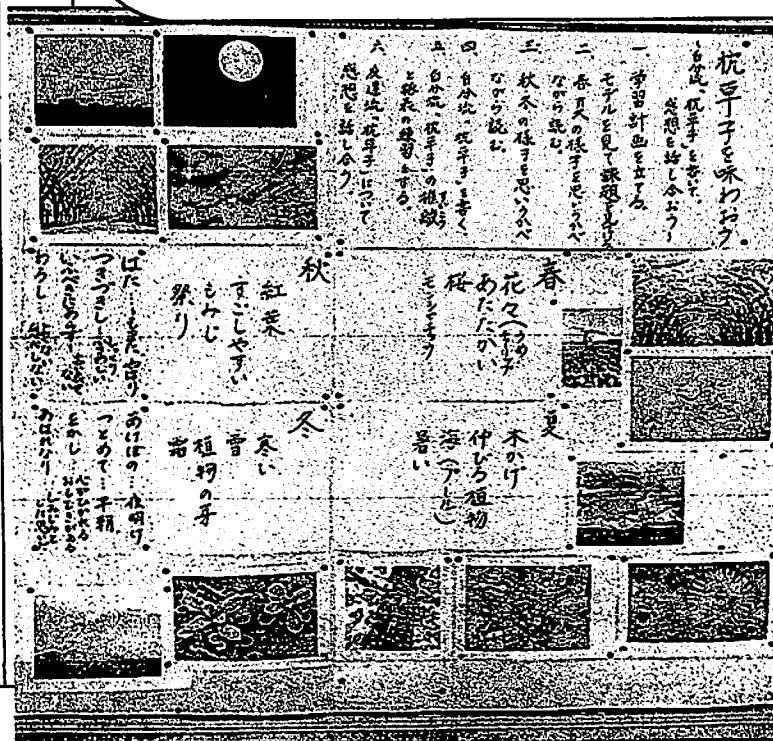
(読むこと)

○古文の言葉の使い方を今と比較できるようにする。

◎当時の言葉と今の言葉との、相違点や共通点に気がついている。

(伝国)

仮説1：何度も音読させることで、教材文の「枕草子」特有の歯切れのよい語感に気付けるようにした。また、現代語に音声は似ているのに、全く意味の異なる古語があることに気付かせ、知識として覚えさせ、おもしろさを感じられるようにした。また、言葉を収集し、吟味する活動を大切にするすることで、自信をもって発表できるようにした。言葉を収集するときも、吟味するときも辞書を引かせ、幅広い表現の仕方に気付けるようにした。さらに、単元全体を通して、毎時間、教材文の音読や暗唱を取り入れていき、上手な音読を手本にすることで、表現の工夫に対する関心を高め、古文のおもしろさに気付き、自分も創作したいという意欲につなげていった。

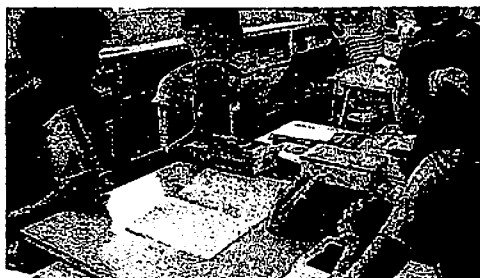


〈児童と立てた学習計画の掲示物と児童から出た好きな四季の風景〉

手立て：学習の流れの掲示 〈仮説2〉

2

- ・自分の感じる季節感を「枕草子」のように書く。
- ・どのような表現がよいか、言葉の選び方などを友達と助言し合う。



〈類語辞典、国語辞典を使って言葉を吟味している様子〉

→ビデオ2

- ワークシートを使って自分の感じる季節感を書き出すことで、考えを整理したり、語彙を増やしたりできるようにする。

手立て：辞書の活用〈仮説1〉

：ワークシートの工夫〈仮説3〉

- 言葉をたくさん収集し、吟味するときに友達と助言し合うことで、自信をもって創作できるようにする。

手立て：考えを伝え合う場の工夫〈仮説3〉

：グループ学習〈仮説3〉

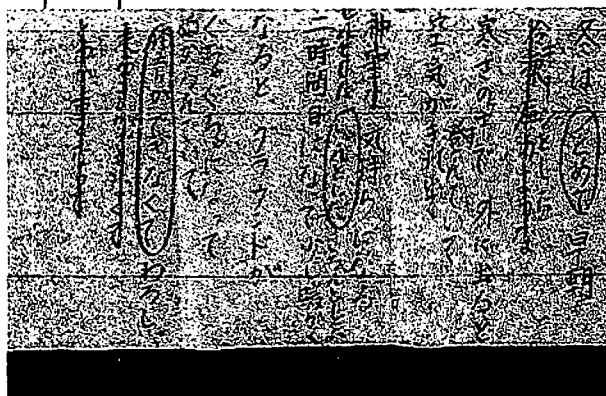
- ◎表現を工夫して自分流「枕草子」を書いている。

(書くこと)

手立て：創作活動〈仮説1〉

仮説1：自分流「枕草子」の創作活動の前段階として、よりよい作品をめざし、推敲することができた。その際に、助言をし合うことを通して語彙を増やすことができた。

仮説3：まず、四季の特に好きな季節をもとに小グループをつくり、その季節の好きな部分を話し合わせ、それが表現に生かせるようにした。他の季節を選んだグループに自分の物の見方や感じ方を伝えるという目的のもと、自分流の「枕草子」を創作した。その際に、グループの友達と考えを伝え合う活動を意図的に取り入れ、言葉の吟味や書けない児童の支援ができるようにした。話し合う中で互いを高め合い、考えを深めることができると考え、少人数のグループにしてそれぞれの意見を出しやすくした。



〈教師の示したモデル〉



〈「枕草子」発表会の練習を動画で撮影し、話し方がよいか確認している様子〉

→ビデオ3

手立て：よいモデルの可視化〈仮説2〉

〈児童 A の作品の変容〉

春はつこめて。
暖かな光につつまれ、
桜が飛び散る。
新道で慌てる赤色
の桜を、信じるの足かし。
ねむっているばかり。
きれいに咲く桜の花びら、
じつと冷たい風の中で
まをかし。

〈児童 B の作品の変容〉

〈児童 C の作品の変容〉

[illegible][illegible][illegible]

1

- ・できた作品を発表し合い、それについての感想を話し合う。
- ・振り返りを行い、自分の成長について考える。



〈自分流「枕草子」発表会の様子〉

→ビデオ4

○友達流「枕草子」の表現について、「心に残ったところ」、「情景や心情がわかる場所」、「自分には思いつかないところ」の3つの観点をもって聞くようにすることで、感想がもてるようにする。

手立て：考えを伝え合う場の工夫〈仮説3〉

○友達流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友達の感想を自分の感想と比べて聞いたりしている。

(話すこと・聞くこと)

○振り返りカードをつかって、自分の成長に気付けるようにする。

手立て：振り返りカードの活用〈仮説2〉

仮説3：他の季節を選んだグループと交流させることで、それぞれの季節に対する考えが深まるようにした。言葉の選び方や表現によってどのような季節の印象を感じたか、友達の作品の特に心に残ったところ、情景や心情がわかる場所、自分には思いつかないところを引用させながら感想を述べさせた。季節について相手が意図したことを聞き取るように促して聞き手としての技能を高めるとともに、伝わるように話したいという態度や伝わるような話し方の工夫をさせることができた。自分の書いた「枕草子」と比べさせ、改めて季節に対して感じたことや、友達との感じ方の違いから、深まった季節感について述べるができるようにした。振り返りカードを活用し、支援をすることで一人一人が意欲的に学習できた。

自分のグループは、(木)グループ
話し合った内容は、春のイメージを
この話し合で春のイメージを
てきれいな木々と思いきや、春は
るん花がさかすかといふ感じだ

〈左から児童A、B、Cの感想〉

自分のグループは、(木)グループ
話し合った内容は、春のイメージを
この話し合で春のイメージを
てきれいな木々と思いきや、春は
るん花がさかすかといふ感じだ

自分のグループは、(木)グループ
話し合った内容は、春のイメージを
この話し合で春のイメージを
てきれいな木々と思いきや、春は
るん花がさかすかといふ感じだ

5 成果と課題

【仮説 1 について】

〔成果〕 国語への関心の向上

○平成 29 年度 7 月児童のアンケートより、「日本語の美しさを感じている」児童は全校の 72%であった。「国語の学習で自分の思ったことや考えたことを書いたり表現したりする創作活動は好きか」という質問に対し肯定的な回答は平成 28 年度 7 月の 64%から 29 年度 7 月に 72%と増加した。「漢字や仮名の学習に進んで取り組んでいる」とする児童は 68%、「俳句や短歌づくりに進んで取り組んでいる」児童は、67%であった。また、児童の感想から、日本語を音読したり暗唱したりすることで、「言葉や漢字が覚えられる」、「おもしろい」、「様子がわかる」と語彙が増えつつあることを実感している様子がわかった。

○6 年生の実践より、実践前と実践後では、古典が好きと答えた児童が 64%から 76%に増えた。学習に進んで取り組み、言葉を大切にして学習する姿が見られた。

〔課題〕 語彙力をさらに高める手立て

- 日本語のよさやおもしろさを感じているにもかかわらず、具体的に記述できた児童は 60%であった。今後も語彙を増やし、表現する力を付けさせていきたい。

【仮説 2 について】

〔成果〕 主体的に学習する力の向上

○「国語科の学習にめあてをもって取り組んでいるか」という質問に、全校の 79%が肯定的な回答をした。6 年生の実践では、肯定的な回答が実践前の 64%から 84%に実践後増加した。

○児童に身につけさせたい力を指導者が明確にねらい、その力をつけられるような言語活動を設定し、言語活動のゴールとなる姿を導入の段階でよいモデルとして見せることで、児童が見通しをもち、主体的に活動することができた。

○相手意識や目的意識が言語活動をする中ではっきりとわかり、意識させることで児童が相手の反応を確かめたり、相手に合わせた表現の仕方をしたりすることができた。

○振り返りカードを使い、学習したことを振り返る時間をとることで、次時への見通しの確認ができ、意欲的に学習に取り組めた。

〔課題〕 教師の指導力

- 目指す姿を指導者がしっかりととらえ、つけさせたい力を絞って言語活動を設定したり、モデルを作ったりすることが難しかった。今後も教材研究と児童の実態把握をしっかりとしていく必要がある。

【仮説3について】

〔成果〕探究的な話し合いの力の向上

- 考えを伝え合う場をどの学年でも多く設定し、伝え合ったことを自分の考えに生かす活動多く取り入れた。その結果友達の商品について感想を述べたり助言したり、助言を生かしたりしているとする児童が増えてきた。自分の考えを深め、表現することができるように、今後も場の設定を工夫したい。
- 「友達から助言されたときに、その意見を生かしてよりよくしようとしているか」という質問に対し、全校では平成28年度7月が73%、12月が83%、平成29年度7月が88%と増加している。考えを伝え合う場を意図的に設定し、グループ学習を推進した効果であると考えられる。
- 6年生の実践では、聞き手を育てる指導を大切にすることで、実践前は、話すことのみ、聞くことのみ意識が向いている児童が多かったが、話し合いをすることで、自分の考えが深まったり広がったりすることに言及している児童が増えてきた。実践前と後では、話し合いのよさとして、意見を交換させるだけでなく、「よりよい考えが見つけれれる」、「よりよい考えになる」など意見が深まると感じた児童が、まだまだ少人数ではあるものの20%増加した。
- ペアや少人数によるグループ活動など学習形態を工夫することで、表現することへの抵抗感が薄れるとともに、相手が表現したことに対して必ず反応しなければならない状況ができて、意欲的な学習につながった。
- 振り返りカードやワークシートを指導者が確認することで、個々への声かけなど、対応ができ、1人1人が自分の考えをもち、それを交流することができた。

〔課題〕考えを伝え合うことのできる環境づくり

- 考えを伝え合うための工夫のある場の設定は、聞き手や読み手を育てるために、学級指導で児童が互いに認め合う雰囲気を作ることも含めて、まだまだ必要である。表現しやすい状況や環境が児童の学び合いを助けることになるであろう。
- 聞いたり読んだりした内容の感想を述べたり、質問するために感想の言葉集を活用したり、適切な言葉をその場その場で教えたりして語彙を増やしていく必要がある。聞き手や読み手が育つことで、友達の反応が励みになるとともに、さらに自分の考えを豊かに表現する児童が育つであろう。
- 6年生の実践では、望ましい司会をする力は、まだまだ、身につけていない児童が多かった。国語科だけでなく他教科などでも意図的に話し合い活動を実践していく必要がある。

平成29年8月23日

第67次 印旛地区教育研究集会

国語科「話すこと・聞くこと」分散会

研究主題

主体的に学び、自分の考えを豊かに表現できる児童の育成

資料編



佐倉市立根郷小学校 貝渕 寛枝

目次

1	平成29年度 第6学年実践資料……………	2
2	平成28年度 第2学年実践資料（※）…	6
3	平成28年度 第3学年実践資料（※）…	11
4	平成28年度 第5学年実践資料（※）…	15

※平成28年度の仮説1，2は平成29度の仮説2，3と変更しています。

1 単元名

枕草子を味わおう～自分流「枕草子」を書いて、感想を話し合おう～

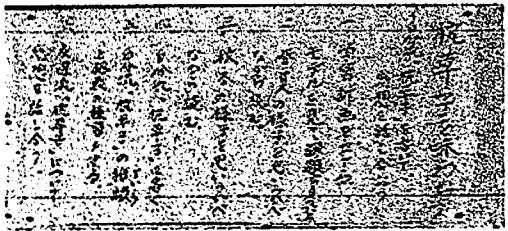
2 学習の様子（6／6）

（1）目標

○友達流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友達の感想を自分の感想と比べて聞いたりすることができる。

（話すこと・聞くこと）

（2）展開

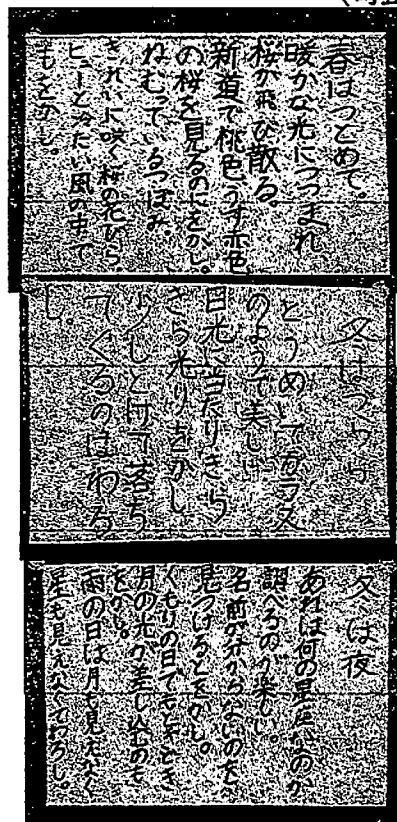
時配	学習内容と学習活動	指導・支援（○）評価（◎）→反省	資料
2	1 枕草子を暗唱する。  〈枕草子の第1段を暗唱する様子〉	○発声させることで、姿勢を正しくさせ、学習の雰囲気作りをする。〈仮説1〉 →何度も音読させることで、教材文の「枕草子」特有の歯切れのよい語感に気付きおもしろさを感じていた。 ○学習の流れの掲示物を示し、学習に意欲的に取り組めるようにする。 	学習の流れの掲示物
5	2 本時のめあてを確認する。 友達流「枕草子」について感想を話し合おう。 ・ 早口になってしまうので、ゆっくり堂々と作品を紹介したい。 ・ 自分の作品と比べながら友達作品を聞きたい。 ・ 友達作品について感想がたくさん言えるようにしたい。	○前時の振り返りカードの記述を想起させ、それぞれの自分の課題をもたせる。〈仮説2〉	
28	3 季節ごとのグループで作品を発表し合い、感想を話し合う。 ・ ○○さんの「枕草子」は、ヒューという冷たい風を表す言葉に気を付け	○作品作りの際に、助言し合った仲間は、司会者として発表者の努力や注目すべきところを紹介するようにする。 ○表現の仕方について、「心に残ったとこ	作品ワークシート

て聞いてください。

(司会者)

- ・「ねむっている桜のつぼみ」という表現が、ぼくは思いつかないし、よく情景が思い浮かんでよい表現だと思いました。
- ・風がまだ冷たい様子が伝わってきました。
- ・「をかし」を2度つかっていて、暖かいときでも寒いときでも「桜はいい」としていて古語の使い方がいいと思いました。
- ・風の様子が伝わってよかったです。自分の意識していなかった「ねむっているつぼみ」がよいと言われて嬉しいです。(発表者)
- ・〇〇さんの、「ヒューと冷たい風の中で」の表現が、聞いていた人伝わっていたのでよかったです。

(司会者)



〈児童の作品〉

ろ」「情景や心情などがわかるころ」「自分には思いつかないところ」の3つ観点をもって聞くようにすることで、話し合いが活発になるようにする。

＜仮説3＞

○友達はどうのような季節感をもっていて、それをどのように表しているかに着目して聞き、それを引用して話すようにする。

◎友達流「枕草子」の表現について感想を述べたり、友達の感想を自分の感想と比べて聞いたりしている。

【観察、ワークシート】

○難しい児童には、印象に残った言葉のみについて述べられるようにする。

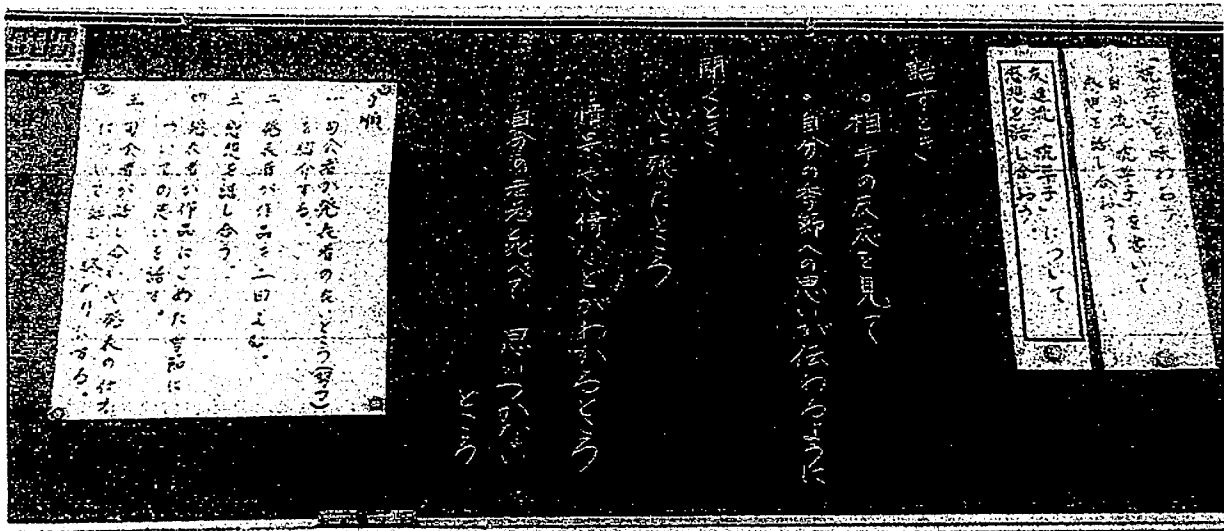
○自分の季節に対する思いが相手に伝わったか、振り返るようにさせる。

→季節について相手が意図したことを聞き取るように促して聞き手としての技能を高めるとともに、伝わるように話したいという態度や伝わるような話し方の工夫をさせることができた。

→司会者によっては、感想を言わせるだけで、それに対しての反応を発表者や他の聞き手から引き出させなかったの
で、話し合いが深まらないところもあった。
聞き手が発表者に助言をしたときに、
どちらがよいかそこで意見を交換させるとよかった。

10	〈発表の様子〉 4 学習の振り返りを行う。	→自分の書いた「枕草子」と比べさせ、改めて季節に対して感じたことや、友達との感じ方の違いから、深まった季節感について述べることができるようにした。 ○学習を通して、何がわかったのか、何が身に付いたかを振り返り、何が課題であるか振り返りカードに書けるようにする。	ワークシート 振り返りカード
-----------	---	--	------------------------------

(3) 板書



3 仮説に対する成果（○）と課題（●）

【仮説1について】

○古典文学にほとんどの児童が楽しさを感じ、学習に意欲的に取り組んでいた。最後まで古典文学に抵抗のある児童も、適宜声をかけることで、学習全体に参加できていた。

○辞書をつかって言葉を吟味させる活動に力を入れることで、言葉1つ1つを大切にする児童が増えた。自分の表したい事柄がいろいろな言葉で表現できることに気づき、そこにおもしろさを感じている児童も多く、また、言葉について質問があってもそれに自信をもって理由を述べている児童が多かった。

○並行読書も行い、清少納言だけでなくいろいろな古典文学に興味をもつ児童が増えた。



【仮説2について】

○モデルを見て意欲が高まり、次回にどのような学習をすればよいか自分で考えて毎時間振り返りカードに書ける児童が多かった。

○どのような場面でもモデルは大切であると感じた。つけさせたい力を指導する側がしっかりと意識し、それを児童に伝えるために、児童の実態に合わせてモデルをつくり、見せることは効果的であった。

●振り返りカードを活用できていない児童が数名いた。自分の成長に気付かせ、自己肯定感を高めるとともに、学習してよかったという思いが感じられるようにしていきたい。

【仮説3について】

○聞き手を育てる指導を大切にすることで、話し合いが活発になるであろうと考え実践した。実践前は、話すことのみ、聞くことのみで意識が向いている児童が多かったが、話し合いをすることで、自分の考えが深まったり広がったりすることに言及している児童が増えてきたことは大きな成果である。

○話し合いの仕方がわかり、それぞれ工夫しながら話し合いができるようになってきた。

○話し合うことのよさに気づき、相手の意図をとらえながら聞いたり、自分の考えを収集した知識や情報を関係づけて話したりできるようになってきた。

●友達の書いた作品の意図をわかろうと努力し、季節や古語についての知識や情報を関連させて感想を述べられるようになってきたが、話型に頼っており、司会が1つの意見についての更なる意見を引き出したり、考えさせたりすることが難しかった。司会者の役割をしっかりとできるようにモデルを工夫してつくり、指導し、場に慣れさせていく必要がある。

●話し合いをすることで、よりよい考えがつけられたことに気付かせられるようにしていきたい。自分の考えに固執し、他の意見が取り入れられない児童が数名いるので、学級の雰囲気作り、認め合う態度なども含めて、よいものを認められる態度を育てていきたい。互いを尊重し、考えたり想像したりことを話し合うことで深め、それを表現できる児童を育てたい。

1 単元名

話し合ってきめよう ～1年生とのお楽しみ会について話し合おう～

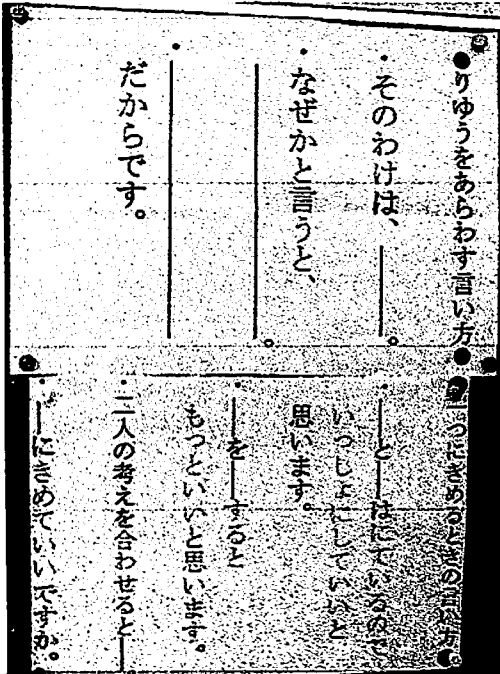
2 学習の様子 (7/9)

(1) 目標

○お楽しみ会の出し物を決めるために、グループで話し合おうとする。(関心・意欲・態度)

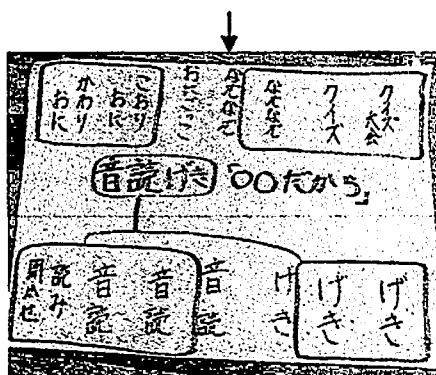
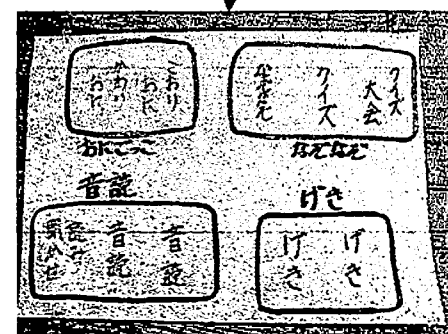
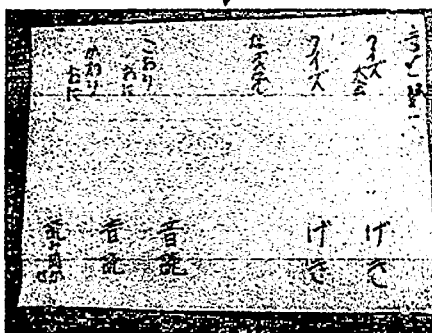
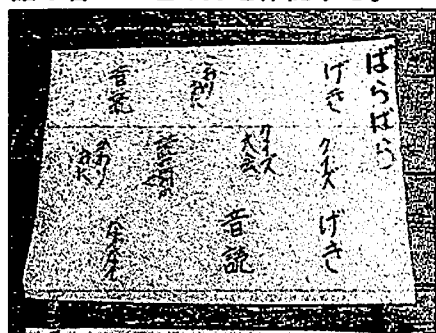
○話題からそれずに話し合い、意見を一つにまとめることができる。(話すこと・聞くこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) 評価 (◎) → 反省	資料
2	1 本時のめあてを確認する。		学習の 流れの 掲示物 大切なこ と 言い 方の 掲示物
4	2 話す時に大切なことや聞く時に大切なこと、理由を表す言い方や一つに決めるときの言い方を確認する。  <学習のふり返しをする様子> 	○前時までに学習したことを振り返らせ、話し合いで活用できるようにする。 →<u>学習したことを掲示しておくことで、常に確認しながら話し合いで活用することができた。</u>  <実際に使った掲示物>	

5

3 話し合いの進め方を確認する。



<カード操作の手順>

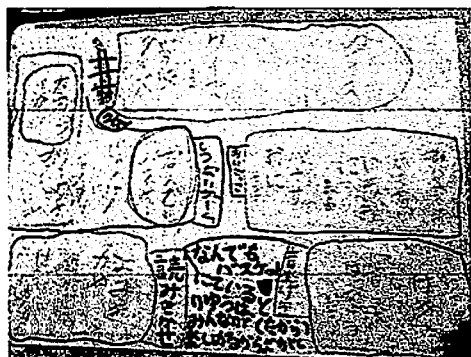
○グループ内で意見をまとめていくために、カードを操作することを確認する。
→カードの操作方法について順を追って確認することで、児童はスムーズに活動に入ることができた。

話し合いの進め方の掲示物

4 グループで意見を整理する。

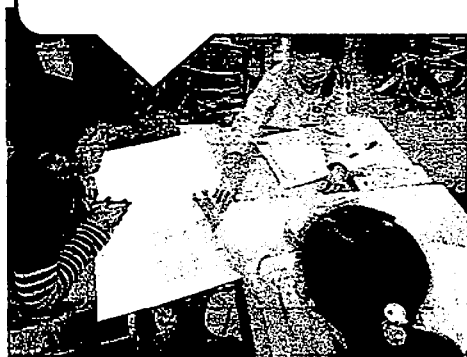


私は「なんでもバスケット」がいいと思います。理由は、誰でも知っていて楽しめるからです。



<同じ意見をまとめて線で囲んだ>

1年生も知っているからドッジボールがいいんじゃないかな。



<一つに決めている時の様子>

○カードを見て似ている意見を近づけたり、似てない意見は離したりする活動を繰り返し、活発に話し合いをできるようにさせる。<仮説2>

→付箋紙を使ったことで、視覚的に意見をとらえ、話題がそれずに話し合いをすることができた。

○まとまった意見は線で囲み見出しをつけることで、まとまりをはっきりさせ、赤いペンで見出しをつけさせる。

→まとまりに見出しをつけることで、他の意見との関連や違いが分かりやすくなった。

○相手や準備時間などの視点を与え、本当にできるかどうか話し合いさせる。

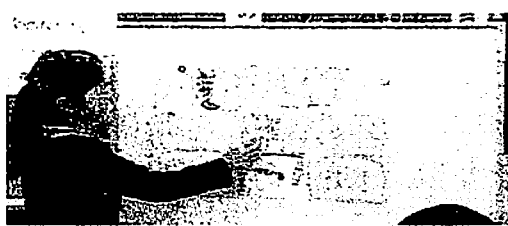
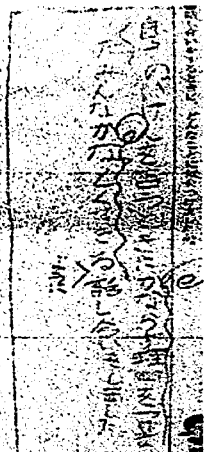
→「1年生と遊ぶ」ということについて振り返り声をかけることで、相手意識を高めることができた。

○自分の意見がどこにあるのかわかるように、ネームプレート置きながらカードを操作させる。

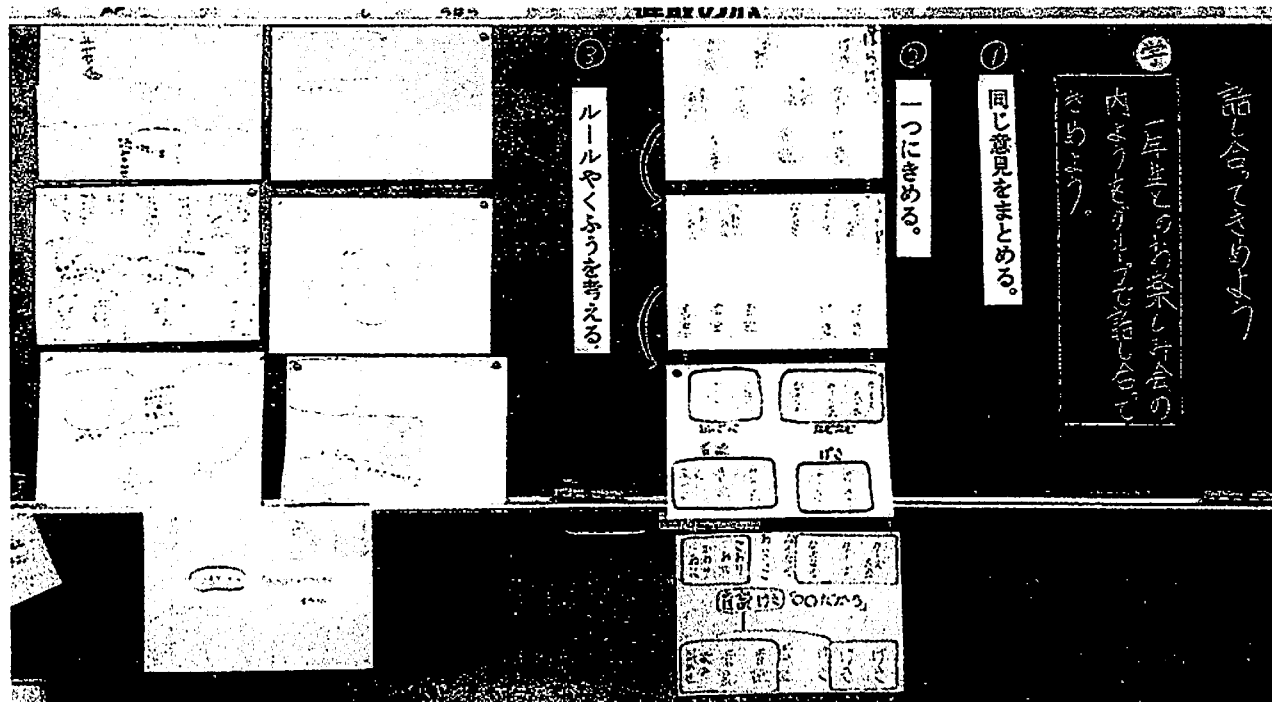
◎話題からそれずに話し合い、意見を一つにまとめようとしている。

(話すこと・聞くこと)

二色
のペン
模造紙
意見
カード

9 5	5 決まったことをグループごとに発表する。  <決まったことを発表する様子> 6 本時の学習をふり返りをする。  <ワークシートに記入したふり返り>	○全員に話し合いの進み方がわかるように、カードを操作した模造紙を黒板に貼っていく。 →<u>班ごとに話し合いの様子を説明させたが、発表方法に戸惑いを感じている児童が多く、日常的に経験させる必要があった。</u> ○今日できたこと、次に頑張りたいことなどをふり返らせ、次時の話し合いの意欲を高めさせる。 →<u>話し合いで気をつけたことという視点を与えることで、めあてに則してふり返り、合意形成をすることの大切さに気づいた。</u> ◎お楽しみ会の出し物を決めるために、グループで話し合っている。 (関心・意欲・態度)	ふ り 返 り カ ー ド
-------------------	---	---	--

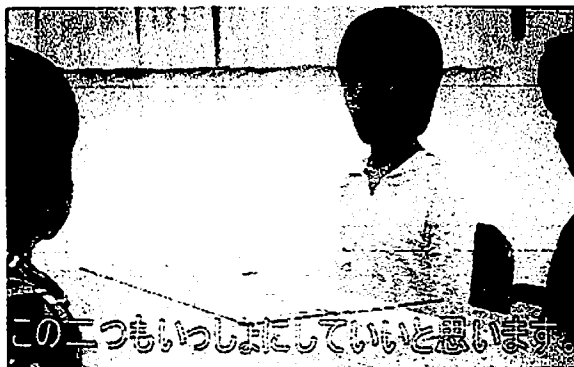
(3) 板書



3 仮説に対する成果と（○）と課題（●）

【仮説1について】

- 目指す姿を教師が作り提示することで、児童が具体的にイメージを持つことができ、自分の題材選びや活動を円滑に進めることができた。また、教師も児童のつまづきを予想することができ、ワークシートを作り直したり、支援をを考えておいたりすることができた。



〈話し合いのモデルを動画で提示〉

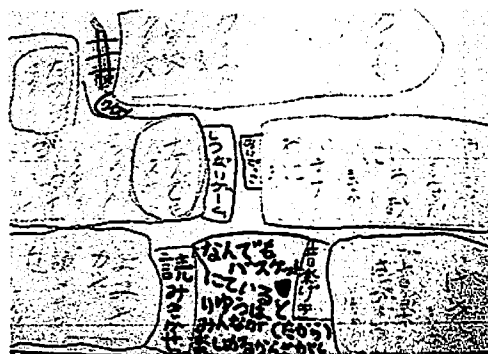


〈付箋の操作の仕方を提示〉

- 話し合いの進め方の動画や自分の考えを書いた付箋の操作の仕方を提示したうえで活動したことで、ルールに沿ってお互いに考えを伝え合うことができた。話し合いの様子を動画で示したことは、児童が理解するのに有効であった。

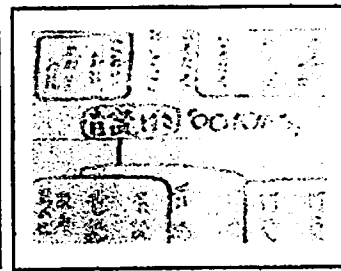
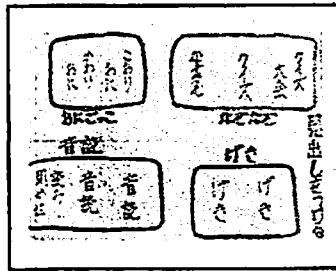
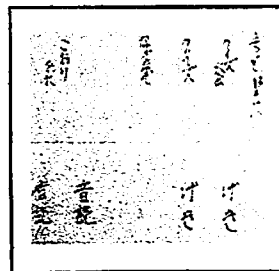
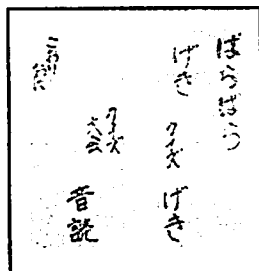
【仮説2について】

- 自分の考えを付箋に書いて操作をしながら話し合いをすることで、友達の考えがよくわかり、スムーズに行うことができた。
- 本時の振り返りを行うことで、児童が学習の成果を確認することができた。教師は児童の成果と課題を認識し、実態に合った支援を行うことができた。



〈付箋に書くことで互いの考えを知る〉

- 話し合いの進め方を板書に提示したことで、迷うことなく話し合うことができた。児童が充実した活動と成果を感じ、意欲をもって交流することができるようになった。



〈ばらばら〉 → 〈まとめる〉 → 〈見出しをつける〉 → 〈1つに決める〉

〈話し合いの手順をわかりやすく板書〉

- 自分の考えを表現することはできるようになってきたが、友達の考えを知り、まとめていくことには難しさを感じる。日々の授業の中で話し合いを効果的に行い、技術を高めていく必要がある。

1 単元名

たからものをしょうかいしよう ～じまんのたからものはっぴょうかいをしよう

2 学習の様子(4/8)

(1) 目標

○友達の発表のよいところを積極的に探そうとする。

(関心・意欲・態度)

○話す速さや声の強弱に気をつけてわかりやすく発表することができる。

(話すこと・聞くこと)

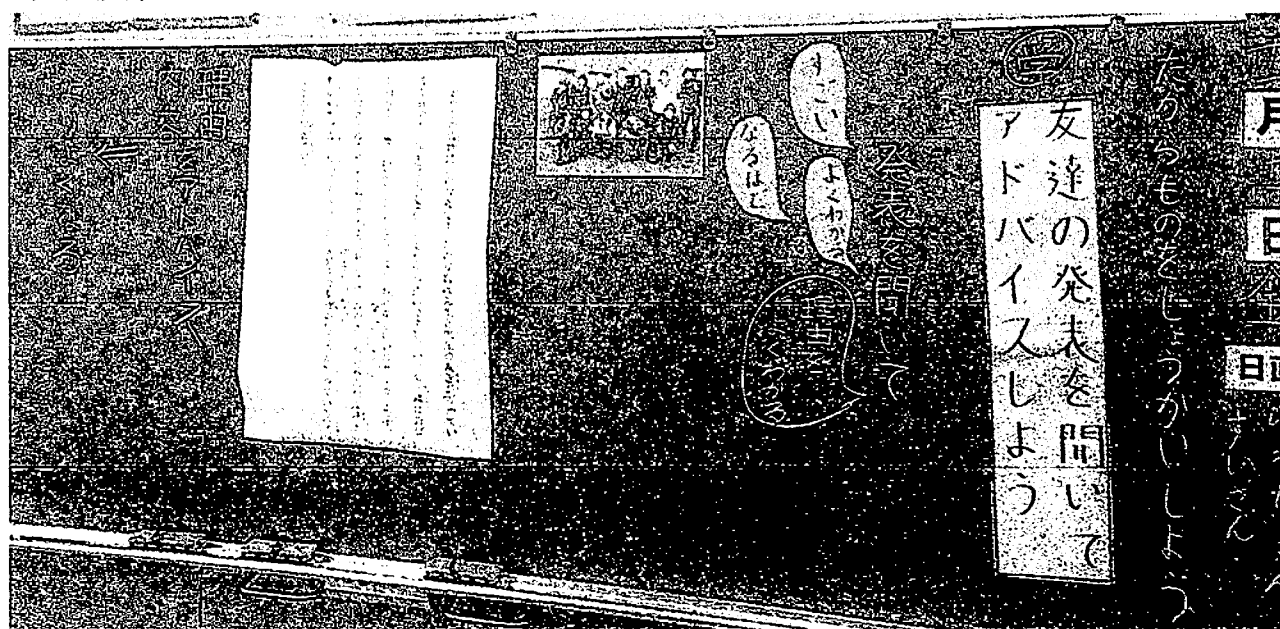
(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) 評価 (◎) →反省	資料
2	1 教師のスピーチメモを読み、どのように感じるか発表し合う。 ・とても理由が良くわかる。 ・分かりやすい発表です。	○どのような発表をすると理由が良くわかる発表になるのか一緒に考える。 →全体で確認することで、どのような発表すると、「なるほど」と感じる発表になるのかを確認できた。	学習の流れの掲示物
友達の発表を聞いて、アドバイスしよう。			
4	2 グループでの話し合いでの約束を確認する。 ・理由がよくわかるかについてアドバイスをする。 ・話し方や声の大きさなどについてはアドバイスしない。  <話し合いの約束を確認する様子>	○それぞれの発表を聞いてアドバイスをすることで、よりよいものにするという、グループ交流会の目的をしっかり押さえる。 ○今回は理由がよくわかるかに注目して聞くことを全体場で確認する。 →全体場で確かめることで、話し方や声の大きさについてアドバイスする児童は少なかったが、低位への児童は内容のアドバイスは難しかった。 ○話すとき、聞くときの視点を明示し、グループでの話し合いの視点を明確にする。 ○友達のスピーチのよいところを見つけて褒めるようにする。 →よいところを見つけて褒めるこ	

24	3 グループごとにスピーチメモをもとに発表を行い、聞いていた児童は宝物がよく分かったかや話し方などについてアドバイスをを行う。 ・呼びかける言葉を入れるともっとわかりやすくなるよ。 ・〇〇さんの宝物になった理由がよくわかりました。 ・話の最初の方に理由を説明する文を入れよう。 なぜ宝物になったのか理由がくわしく書かれています。 <グループでの話し合いの様子>	<u>とで、温かい雰囲気話し合うことができた。</u> ○発表から意見交流までを一人6分程度行い、時間が経ったら合図をし、全員が交流できるようにする。 〈仮説2〉 →<u>宝物の理由についてよくわかるかについて着目しながら活発に話し合うことができた。</u> ○話し合いに参加できない児童が出ないようにアドバイスカードを用意し、そこに自分が感じたことを書かせながら聞かせる。 →<u>アドバイスカードを書くことで自分の考えをまとめながら聞くことができたが、話し合いと同じことを行っただけで活動が重複してしまった。</u> ◎友達の発表のよいところを積極的に探そうとしている。(観察) 話の最初の方に理由を説明する文を入れるともっとわかりやすい発表になるよ。 ○自分の思いが相手に伝わったか、わかるように伝えられたのかを振り返るようにさせる。 ○各自の発表をじっくりと思い出し、アドバイスを受けたことや友達の発表の中で真似したいと思ったことを振り返るようにさせる。 →<u>アドバイスを受けたことを基に</u>	スピーチメモ アドバイスカード 付箋 ふりかえりカード
10	4 アドバイスを受けて感じたこと、友達のよいと思ったことをもとに文を直す。 ・なぜ宝物になったのかくわしく書こう。 ・ここに宝物の思い出をつけ足そう。		

	 ＜原稿を直している様子＞ 5 5 ふり返しカードを書く，書いたことを クラスみんなに発表する。	して自分の発表を見直すことが できた。 ○全体場で感想を共有する。	
--	---	---	--

(3) 板書



3 仮説に対する成果 (○) と課題 (●)

【仮説1について】

- よいモデルの可視化をすることで、児童が主体的に学ぶことができた。モデルを児童が見ることで、具体的にどのように学習を進めていくのか、見通しをもつことができた。指導者も子どもたちのつまずくであろう場所が予想でき、指導にいかすことができた。
- 知っている先生達の話し合いの様子をビデオで見せることで、意欲が高まった。発表会をするためにどうすればよいのか意見を出し合い、学習計画を立てることができた。
- 身に付けさせたい力が学習計画の途中で、ぶれてしまい、よくばった指導になってしまった。学習計画の段階で練ることと、何がねらいであるかを指導者がしっかりと把握する必要がある。
- これまでの発表経験から、うまくできたかどうかを左右させるのは、話し方や準備の仕方が自分で満足できたか、聞き手の反応がよかったかによるところが大きいことがわかった。本実践は自分たちで計画を立て、計画に沿って学習したことにより、発表がうまくいったと感じる児童が多かった。
- 早口で話してしまう児童や内容の構成、資料の提示のタイミングなどで工夫できている児童は少なかった。練習の時間の確保と、発表の場の回数を重ねること、客観的に自分の発表動画とモデル動画を比べて見ることなど工夫が必要であった。

【仮説2について】

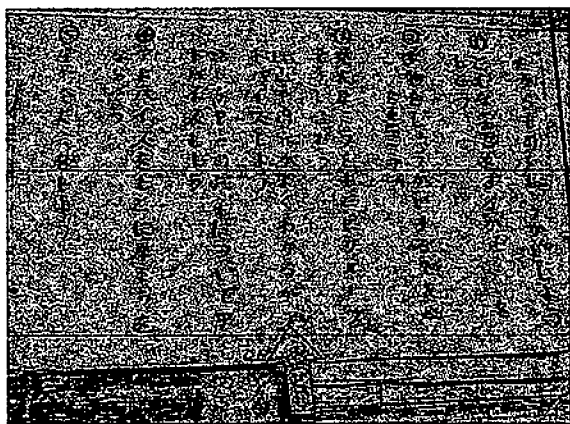
- 話し方だけでなく、発表の仕方の工夫をする児童が増えた。語りかける口調での発表の仕方、間の取り方、資料の見やすさについて多くの児童が工夫し、気をつけることができていた。
- 一人での発表をめざしながらも、途中での話し合いを大切にすることで、自分の発表したいことをよりわかりやすく、工夫して発表することができていた。特に、班での発表になると友達に任せてしまう児童が、自分の力でやり遂げざるを得ない状況になり、また、少人数の班にしたことから、意見を言うことが出来ていた。
- まったくの一人一人の発表になると、比較的に得意な児童が、自分の好きなように発表するが、それを互いに見せ合い、アドバイスし合うことで、よりよい発表がどんなものか考えながら、独りよがりにならない表現ができていた。それぞれの力が高まったと自分自身で感じることもできた様子が、最後の振り返り用紙でよくわかった。
- 自分の考えを発表することでわかってもらえると気付けた児童が多くなった。恥ずかしいという児童が減ったのは、グループで話し合うことによって自信がもてたことが大きいと考えられる。
- 人前で話すこと自体に抵抗を感じている児童も依然としている。言語活動を工夫し、今後も意図的に人前で話す場面を多く設定する必要がある。
- 感想を述べるときなど、語彙の少なさが感じられ、いつも同じような内容になってしまっていた。また、相手の話していることを聞き取ることが難しい場面が見られた。いろいろな言葉に触れさせ、語彙力を養う必要がある。
- ワークシートを各種つくったことで児童が自分の思いをしっかりとつことができた。

発表者	発表内容					発表時間
	1	2	3	4	5	
児童A	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約45秒
児童B	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童C	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童D	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童E	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童F	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童G	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童H	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童I	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分
児童J	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	すてきな花	約1分

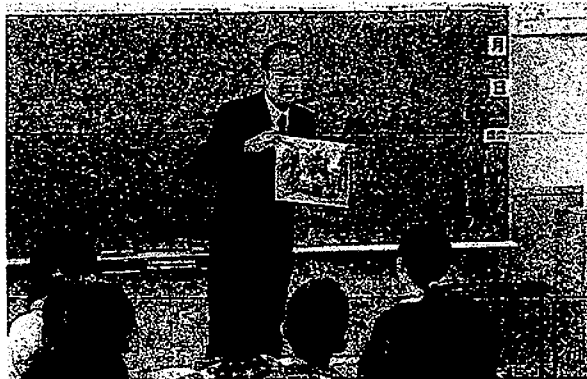
3 仮説に対する成果（○）と課題（●）

【仮説1について】

- 出来上がりのモデルを教師が作り提示することで、具体的に作品のイメージをもつことができ、進んで活動することができた。
- 教師が児童へ提示するモデルを作成する過程を通して、どこが難しいのかを理解することができ、児童へのアドバイスもより具体的にできるようになった。



<学習の流れの掲示物>



<教師のモデル提示>

- 学習の流れを提示したことで見通しをもつことができ、主体的に活動することができた。
- 振り返りカードや授業後の感想を見ることで、学習の目的に合った活動ができているかどうかを教師が把握することができ、次回への活動に生かすことができた。
- 児童への個別支援をより具体的にするために、教師が教材研究をさらに深め、国語科として身につけさせたい力を考える必要がある。

【仮説2について】

- 振り返りカードやその日の活動の感想を記入することで、1時間ごとの自分の成果がはっきりし、次回の目標をしっかりと持つことができた。
- アドバイスカードや付箋などを使ったことで、他者との交流がスムーズに行われた。
- 話し合い活動を充実させるためには、ポイントがよくわかる板書が大切である。構造的でポイントをしっかりにとらえたわかりやすい板書を研究する必要がある。
- 文章を書くことが苦手な児童にとっては、グループでの話し合いでアドバイスされたことをどの様に生かしてよいのかわからず活動が停滞していた。個に応じた手立てをもう少し具体的に提示する必要がある。
- 「声を大きく。」「身振り手振りをつける。」「相手の目を見る。」など発表に関する技能的なアドバイスはかなりできるようになったが、内容に関するアドバイスは少なかった。聞く観点を児童にわかるように具体的に示す必要があった。

1 単元名

自学発表会をしよう～資料をくふうして効果的に発表しよう～

2 学習の様子 (5/8)

(1) 目標

○資料や内容を精選し、工夫して発表の準備を行おうとする。 (関心・意欲・態度)

○資料や内容をグループで話し合って精選し、工夫して発表の準備をしている。

(話すこと・聞くこと)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 (○) 評価 (◎) →反省	資料
5	1 学習の計画を確認し、本時のめあてを確認する。	○振り返りカードの記述を利用し、本時の学習の意欲をもたせる。	学習の流れの掲示物
	資料や内容をグループで話し合って選び、発表会の準備をしよう。		
25	2 「自学発表会」を行う上での資料をグループで話し合い、選ぶ。 ・資料がテーマに沿っているか ・聞き手にとって効果的か ・信憑性があるか このグラフは何の項目かがはっきりしていないから、書いた項目をもっと目立たせた方がいいと思います。 	○教師のモデルを見せることで本時の学習がわかりやすくなるようにする。 ○発表会をする上で大切な観点を示し、資料が選べるようにする。 <u>→グループで活動する前に、まずは自分の力で資料を集め、情報を整理するようにした。その後で資料を見せ合ったり、調べたことを報告しあったりすることで互いに助言し合い、自分の考えを深めるとともに自信をもつことができた。</u> <u>→話し合いの際は3、4人のグループにすることで、緊張せずに話し合いができるようにした。話し合いの仕方や資料について、やり方をモデルで示し、児童が意欲的に取り組めるようにした。</u>	教師のモデル
	〈1人の発表の資料についてグループで話し合う様子〉		

10 3 発表のための柱の数を確認し、資料が
できているか確認する。

ワーク
シート

[illegible]

資料編 16

